

# 川路地区防災計画



平成 27 年 2 月

飯 田 市 川 路

# 目次

1	はじめに	3
2	計画の対象地区の範囲	4
3	基本的な考え方	7
	(1) 基本方針(目的)	7
	(2) 活動目標	7
	(3) 長期的な活動目標	7
4	地区の特性	8
	(1) 自然特性	8
	ア 当地域で予測される自然災害	8
	イ 災害発生予測場所における居住者・集落等一覧	8
	ウ 土砂災害警戒区域等にある要援護者施設	8
	エ 浸水想定区域内要配慮者施設	9
	オ 過去の災害	9
	(2) 社会特性	9
	ア 当地域で発生が予想される人為災害	9
	イ 集落別高齢化率と生産年齢人口	9
5	防災活動の内容	10
	(1) 防災活動の体制(班編成)	10
	(2) 平常時の活動・事前の対策	11
	ア 各世帯が取り組むこと	11
	イ 組合として取り組むこと	11
	ウ 区として取り組むこと	12
	エ 地区として取り組むこと	13
	オ 備蓄資機材の整備計画	14
	カ 地区防災備蓄倉庫一覧	16
	(ア) 整備済の防災備蓄倉庫	16
	別表1 川路小学校防災備蓄倉庫配備品一覧	16
	別表2 竜峡中学校防災備蓄倉庫配備品一覧	19
	別表3 水防倉庫備蓄品一覧	23
	(イ) 倉庫別備蓄品の状況と購入計画	23
	キ 避難所等	25
	別表4 一時避難所リスト	27
	(3) 発災直前の活動	29
	ア 情報収集・共有・伝達体制	29
	(ア) 前兆現象等の連絡・報告	29
	(イ) 状況把握(見回り、住民の所在確認)	29
	イ 避難情報(避難準備情報・避難勧告・避難指示)伝達方法	30
	(ア) 土砂災害・風水害・大雪等	30

(イ) 地震	30
ウ 防災気象情報の確認	30
(4) 災害時の活動	31
ア 身の安全確保 (地震)	31
イ 身の安全確保 (風水害、土砂災害)	31
ウ 出火防止	31
エ 住民同士の助け合い・救助・救出・避難支援	32
オ 情報収集・共有・伝達	32
カ 物資の仕分け、炊き出し	32
キ 指定避難所運営、在宅避難者への支援	33
(5) 復旧・復興期の活動	33
ア 被災者に対する地域コミュニティ全体での支援	33
イ 関係者の連携による速やかな復旧・復興	34
(6) 市、消防、他団体、ボランティア等との連携	34
6 実践と検証	35
(1) 防災訓練の実施・検証	35
(2) 防災意識の普及啓発	35
(3) 計画の見直し	36

# 1 はじめに

平成 25 年 6 月に災害対策基本法が改正され、地域コミュニティにおける共助推進のために「地区防災計画制度」が新たに創設されました。

これは、川路地区の居住者及び事業者が行う自発的な防災活動に関する計画であり、川路地域コミュニティが主体的になり、地域の意見を吸い上げてつくりあげるものです。

そこで、当川路地区では、平成 26 年 3 月に内閣府が策定した「地区防災計画ガイドライン」を参考に、飯田市が策定した「地域防災計画策定の手引」を基に、川路地区防災計画を立案しました。

この防災計画については、災害対策基本法第 42 条の 2 に基づく地区防災計画として飯田市防災会議において飯田市地域防災計画の中に『川路地区防災計画』として位置づけられるものです。

平成 27 年 2 月

飯田市川路地区防災計画策定委員会  
委員長 塩澤 美紀夫

## 2 計画の対象地区の範囲

(平成 27 年 1 月 1 日時点の組合未加入者含めた人数)

地区	区	組合		
川路地区 人口 1,861 人 世帯 636 戸	2 区 人口 153 人 世帯 54 戸	1 組合	人口 42 人	世帯 13 戸
		2 組合	人口 29 人	世帯 8 戸
		3 組合	人口 26 人	世帯 11 戸
		4 組合	人口 22 人	世帯 10 戸
		5 組合	人口 31 人	世帯 10 戸
		未加入	人口 3 人	世帯 2 戸
地区内介護施設入居者 人口 98 人 世帯 98 戸	3 区 人口 154 人 世帯 48 戸	1 組合	人口 27 人	世帯 8 戸
		2 組合	人口 67 人	世帯 17 戸
		3 組合	人口 28 人	世帯 10 戸
		4 組合	人口 27 人	世帯 9 戸
		未加入	人口 5 人	世帯 4 戸
		未加入	人口 5 人	世帯 4 戸
合計 人口 1,959 人 世帯 734 戸	4 区 人口 329 人 世帯 104 戸	1 組合	人口 45 人	世帯 15 戸
		2 組合	人口 42 人	世帯 14 戸
		3 組合	人口 47 人	世帯 10 戸
		4 組合	人口 42 人	世帯 14 戸
		5 組合	人口 32 人	世帯 13 戸
		6 組合	人口 56 人	世帯 16 戸
		7 組合	人口 55 人	世帯 16 戸
		未加入	人口 10 人	世帯 6 戸
	5 区 人口 153 人 世帯 41 戸	1 組合	人口 22 人	世帯 5 戸
		2 組合	人口 14 人	世帯 6 戸
		3 組合	人口 25 人	世帯 8 戸
		4 組合	人口 29 人	世帯 7 戸

		5 組合	人口 21 人	世帯 5 戸
		6 組合	人口 29 人	世帯 7 戸
		未加入	人口 13 人	世帯 3 戸
	6 区	1 組合	人口 16 人	世帯 8 戸
	人口 318 人	3 組合	人口 17 人	世帯 7 戸
	世帯 109 戸	4 組合	人口 27 人	世帯 7 戸
		5 組合	人口 32 人	世帯 9 戸
		6 組合	人口 12 人	世帯 6 戸
		7 組合	人口 39 人	世帯 10 戸
		9 組合	人口 22 人	世帯 8 戸
		10 組合	人口 37 人	世帯 11 戸
		11 組合	人口 63 人	世帯 22 戸
		未加入	人口 53 人	世帯 21 戸
	7 区	1 組合	人口 11 人	世帯 5 戸
	人口 291 人	2 組合	人口 9 人	世帯 4 戸
	世帯 112 戸	3 組合	人口 5 人	世帯 2 戸
		4 組合	人口 13 人	世帯 7 戸
		5 組合	人口 23 人	世帯 8 戸
		6 組合	人口 31 人	世帯 10 戸
		7 組合	人口 9 人	世帯 4 戸
		8 組合	人口 16 人	世帯 7 戸
		9 組合	人口 18 人	世帯 9 戸
		10 組合	人口 25 人	世帯 7 戸
		11 組合	人口 21 人	世帯 7 戸
		12 組合	人口 13 人	世帯 6 戸
		13 組合	人口 11 人	世帯 4 戸

	1 4 組合	人口 20 人	世帯 6 戸
	1 5 組合	人口 23 人	世帯 6 戸
	1 6 組合	人口 17 人	世帯 7 戸
	未加入	人口 26 人	世帯 13 戸
8 区  人口 463 人  世帯 168 戸	1 組合	人口 23 人	世帯 8 戸
	2 組合	人口 31 人	世帯 10 戸
	3 組合	人口 26 人	世帯 11 戸
	4 組合	人口 25 人	世帯 11 戸
	5 組合	人口 29 人	世帯 9 戸
	6 組合	人口 15 人	世帯 7 戸
	7 組合	人口 28 人	世帯 10 戸
	8 組合	人口 32 人	世帯 9 戸
	9 組合	人口 28 人	世帯 10 戸
	1 0 組合	人口 32 人	世帯 9 戸
	1 1 組合	人口 19 人	世帯 8 戸
	1 2 組合	人口 34 人	世帯 9 戸
	1 3 組合	人口 21 人	世帯 8 戸
	1 4 組合	人口 22 人	世帯 10 戸
	1 5 組合	人口 28 人	世帯 9 戸
	1 6 組合	人口 18 人	世帯 7 戸
	未加入	人口 52 人	世帯 23 戸
介護施設入居者  人口 98 人  世帯 98 戸	組合	人口 98 人	世帯 98 戸

## 3 基本的な考え方

### (1) 基本方針（目的）

- ・ 平常時及び災害時における地域防災力を高めることにより、地域コミュニティを維持・活性化すること
- ・ これらを実現するために、地域に暮らす住民一人ひとりが協力して防災活動をはじめとした協力体制を構築する。
- ・ 平時から関係する団体と地域が一体となって、目標に向けて連携体制を構築する。

### (2) 活動目標

#### 【平時の目標】

- ・ 災害時の避難場所や情報入手方法を知っている割合を平成 28 年までに 90%にする。
  - ・ 家具の転倒防止を行なっている割合を平成 28 年までに 60%にする。
  - ・ 7 日分以上の食糧や水の備蓄を行なっている割合を平成 28 年までに 25%にする。
- ※飯田市民意識調査（毎年実施）のクロス集計結果で地区別の割合が公表されています。

#### 【地震】

- ・ 地震による犠牲者をゼロにするため、家具の転倒防止とガラス飛散防止を全世帯で実施する。
- ・ 3 分、3 時間、3 日間を自助・共助で乗り切る。

#### 【土砂災害・浸水害】

- ・ 土砂災害による犠牲者をゼロにするため、土砂災害特別警戒区域居住者への情報伝達を 10 分以内、避難を 30 分以内に行う。
- ・ 30 分以内で行う警戒態勢確立・避難情報伝達・事前避難の完了。

#### 【雪害】

- ・ 大雪に伴う救急搬送の遅れや消火活動の遅滞といった事態にならない、通常なら助かる命が大雪でも守られる地区における除雪態勢の構築。

### (3) 長期的な活動計画

- ・ 地域避難計画の策定
- ・ 地域コミュニティ（自主防災会等）への全住民の加入促進
- ・ 避難行動要支援者に対する個別避難支援計画の策定

## 4 地区の特性

### (1) 自然特性

#### ア 当地域で予測される自然災害

災害の種類	発生時期	町名・集落
地震による家屋倒壊（1割以上）	地震発生時	全域
地震による火災延焼 （1箇所あたり10戸以上）	地震発生時	4区：6組合、7組合 6区：10組合、11組合 7区：県道天龍峡停車場線沿線一帯 8区：3組合
地震によるがけ崩れ	地震発生時	次表 災害発生予測場所における居住者・集落等一覧による
土石流	降雨時	同上
がけ崩れ		同上
浸水害（天竜川本流）	集中豪雨時	盛り土地域＋α
浸水害（天竜川支流）	集中豪雨時	各支流域
大雪（積雪深30cm以上）	降雪期	全域

#### イ 災害発生予測場所における居住者・集落等一覧

災害種類	住所（集落名）	世帯数	世帯人員
土砂災害特別警戒区域 （レッドゾーン）	2区	5	17
	3区	14	45
	4区	2	7
	5区	4	13
	6区	3	7
	7区	4	9
	8区	7	25
	合計	39	123
浸水想定区域	平成14年盛土事業の完工により「市災害危険区域に関する条例」は廃止されているが、天竜川の洪水リスクはゼロではない。		

#### ウ 土砂災害警戒区域等にある要援護者施設

該当なし

エ 浸水想定区域内要配慮者施設

該当なし

オ 過去の災害

いつ	災害名	場所	被害状況
1961年6月28日	三六災	天竜川、支流氾濫域	浸水225戸、被害総額5.8億円余
1983年9月28日	五八災	天竜川、支流氾濫域	

(2) 社会特性

ア 当地域で発生が予想される人為災害

災害の種類	発生時期	町名・集落
長時間停電	強風、降雨、大雪	全域
道路寸断による孤立	土砂災害、大雪	全域
帰宅困難者の発生	強風、降雨、大雪、土砂災害	全域
飯田線寸断により帰宅不能な観光客の発生	同上	全域

イ 集落別高齢化率と生産年齢人口（組合未加入者含む）

地区名	人口	高齢化率		生産年齢人口（15歳～64歳）	
		65歳以上人口	高齢化率	人口	割合
2区	153	52	34%	78	51%
3区	154	47	31%	80	52%
4区	329	104	32%	175	53%
5区	153	51	33%	74	48%
6区	318	82	26%	196	62%
7区	291	136	47%	131	45%
8区	463	146	32%	274	59%
川路全体	1861	618	33%	1008	54%

## 5 防災活動の内容

### (1) 防災活動の体制（班編成）

役職・班名 【担当者名】	平常時の役割	発災直後の役割 “集まれた人で！”	応急期の役割 ～6時間後以降
自主防災会長 【まちづくり委員会会長】	総括	◎「二次被害、受傷事故の防止」  ①被害状況の把握  ②被害の概要を直ちに災害対策本部へ連絡。救助支援が必要な場合はその旨を連絡。  ③避難施設の簡易応急危険度判定（外観→屋内）  ④備蓄倉庫からの資機材運搬  ⑤避難所受付準備  ⑥避難所開設	指揮・意思決定
副会長 【まちづくり委員会副会長女性】	会長の補佐		会長の補佐
総務班 【まちづくり委員会副会長男性】	全体調整、要配慮者の把握		全体把握、被害・避難状況の全体把握
情報班 【 <u>災害対策</u> 委員長】	情報の収集・共有・伝達		情報の収集・共有・伝達（状況把握、報告活動等）
消火班 【消防団、防災川路】	器具点検、防災広報		初期消火活動
救助・救護・給食班 【日赤奉仕団】	資機材調達・整備・器具点検		・負傷者の救出、救護活動 ・水・食糧の配分、炊き出し等の燃料確保、給食・給水活動
避難誘導班 【健康福祉委員長】	避難路、避難施設の確認		住民の避難誘導活動
連絡調整班 【センター長】	近隣他団体との事前調整		他団体との調整
物資配分班 【会計・事務局】	個人備蓄の啓発活動		物資配分、物資需要の把握
清掃班 【 <u>環境保全</u> 委員長】	ごみ処理対策の検討		ごみ処理の指示
衛生班 【 <u>環境保全</u> 委員長】	仮設トイレの対策検討	防疫対策、し尿処理	
安全点検班 【 <u>建設安全</u> 委員長】	危険箇所の巡回点検・水質検査	二次被害軽減のための広報	

防犯・巡回班 【建設安全委員長】	警察との連絡体制 の検討		防犯巡回活動
応急修繕班 【防災川路】	資機材、技術者と の連携検討		応急修理の支援

## (2) 平常時の活動

### ア 各世帯が取り組むこと

何を	いつ・いつまでに	誰が	どのように
7日分以上の水・食糧・生活物資の備蓄	日常的に実施	家事を担う者を 中心に家族全員	家庭内流通備蓄の推進(購入 →備蓄→消費)。
避難場所・避難所の確認	防災訓練の前後	世帯主が呼びか け	家族会議で場所を確認する。 現地に徒歩で行動してみる。
安否確認方法の確認	防災訓練の前後	世帯主が家族に 呼びかけ	伝言ダイヤル171の使い方。 各家庭で良く話合って対応。
自宅及びその周辺の災害 リスクの確認	年に1回	家族全員	歩いて自宅敷地及びその周 辺を確認。
建物の耐震化	平成32年度まで に	世帯主	無料の耐震診断後、資金計画 を立案し実施。
家具の転倒防止	今年度中	中学生以上	L字金具等による固定若し くは配置換え。
ガラス飛散防止フィルム 張り	3年以内	中学生以上	計画的にフィルム張りを実 施。
土のう袋、砂の備蓄	出水期前まで	世帯主	ホームセンター等で土のう 袋を購入。砂を確保できる場 所の事前確認。

### イ 組合として取り組むこと

何を	いつ・いつまでに	誰が	どのように
地震発生時の一時避難場 所の決定と周知	防災訓練の1ヶ月 前までに	伍長	区役員とともに適切な場所 を選定し決定する。決定後、 組合内へ通知やチラシで周 知。

土砂災害・浸水害時の避難場所の決定と周知	出水期前まで	伍長	区役員とともに適切な場所を選定し決定する。決定後、組合内へ通知やチラシで周知。
安否確認手段の確認と訓練	防災訓練の1ヶ月前までに	伍長	組合としての安否確認方法を検討して決定する。訓練で実際に実施。
各世帯で実施する事項の進捗状況確認	防災訓練	伍長	避難場所や情報伝達方法、7日分以上の備蓄等について実施状況を訓練参加者に確認する。
避難行動要支援者の把握と支援者の決定	防災訓練	伍長・社協・健康推進委員会	組合及び近隣の避難行動要支援者を組合内からの情報提供により把握する。その後会議を開き支援者を決定する。
助けあいマップ若しくは要支援者個別計画の策定	防災訓練	伍長及び支援者	いつ、どのようになったときに、誰が、誰のどこへ支援に行くかを記載したものを作成して地域で共有する。
災害種別に応じた避難経路の検討（2ルート以上）	防災訓練	伍長及び各世帯	様々な災害を想定して、2ルート以上の避難ルートを検討する。

#### ウ 区として取り組むこと

何を	いつまでに	誰が	どのように
一時避難場所、応急避難所の安全性の確認とその対応	防災訓練1ヶ月前までに	区役員	地震、土砂災害、浸水害の別に構造やハザードマップ等を用いて安全性を確認。
避難所開設・運営に関する訓練	防災訓練時	区役員をはじめとした住民	応急避難施設内にある資機材を用いて避難所開設・運営訓練を行う。避難所運営マニュアルも参照する。
助けあいマップ若しくは要支援者個別計画の策定	防災訓練の1ヶ月前までに	区長、伍長、区役員	いつ、どのようになったときに、誰が、誰のどこへ支援に行くかを記載したものを作成して地域で共有する。

災害種別ごとに発災及び状況付与された総合防災訓練の実施	毎年防災の日前後に	全住民	実働型の訓練を組み合わせ、状況設定をして、その周知をして訓練実施。事前に被害予測を説明する。
実働に特化した訓練の実施（情報伝達、救助、救護、避難所開設・運営、消火等）	毎年防災の日前後に	全住民	それぞれの分担に合わせて立案から実施までを取り組む。訓練当日は住民の参加を促す工夫をする。
災害対応資機材の備蓄及び使用方法の周知・訓練	防災訓練、地域行事	区役員、住民	資機材を利用する機械に操作方法の習得や、内容物の点検を行う。
用水路、河川の清掃	出水期前	住民	水路のつまりやゴミの除去の実施（特に秋）
汲み取り式外便所の所在の確認	防災訓練の1ヶ月前までに	区長、伍長	水洗トイレ使用不可能になった場合に、外便所を使わせていただく。
防災教育・学習の普及啓発	年に2回	住民、区役員	自主防災会役員向けの研修会を総会に合わせて実施。住民向けのビデオ鑑賞や研修会を実施。

## エ 地区として取り組むこと

何を	いつまでに	誰が	どのように
指定避難場所、指定緊急避難所の安全性の確認とその対応	防災訓練1ヶ月前までに	自主防災会役員	地震、土砂災害、浸水害の別に構造やハザードマップ等を用いて安全性を確認。
避難所開設・運営に関する訓練	防災訓練時	自主防災会役員をはじめとした住民	市防災倉庫内にある資機材を用いて避難所開設・運営訓練を行う。避難所運営マニュアルも参照する。
助けあいマップ若しくは要支援者個別計画の策定	防災訓練の1ヶ月前までに	伍長、自主防災会役員	いつ、どのようになったときに、誰が、誰のどこへ支援に行くかを記載したものを作成して地域で共有する。

災害種別ごとに発災及び状況付与された総合防災訓練の実施	毎年防災の日前後に	全住民	実働型の訓練を組み合わせて、状況設定をして、その周知をして訓練実施。防災倉庫のカギがどこに有るか周知
実働に特化した訓練の実施（情報伝達、救助、救護、避難所開設・運営、消火等）	毎年防災の日前後に	全住民	それぞれの分担に合わせて立案から実施までを取り組む。訓練当日は住民の参加を促す工夫をする。
災害対応資機材の備蓄及び使用方法の周知・訓練	防災訓練、地域行事	自主防災会役員、住民	資機材を利用する機械に操作方法の習得や、内容物の点検を行う。
用水路、河川の清掃	出水期前 落葉後	住民	水路のつまりやゴミの除去の実施
防災教育・学習の普及啓発	年に1回	住民、自主防災会役員	自主防災会役員向けの研修会を総会に合わせて実施。住民向けのビデオ鑑賞や研修会を実施。
川路地区内人材台帳の把握	防災訓練の1カ月前までに	伍長、区長	元消防士、消防団員・元警察官、自衛官・救急、水難救助資格者・アマチュア無線有資格者、建築士・電気主任技術者・保健、助産、看護師・整体、整骨師・栄養、調理師などの資格を持っている方の把握。

#### オ 備蓄資機材の整備計画

No.	区分	品名	目標数量	目安	現在数量	備考
1	情報伝達用具	本部看板	1	地区に1つ	1	
2		スピーカーセット	1	広報車1台に1つ	1	
3		電気メガホン	17	集落数+本部3つ	11	
4		無線機	11	集落数+基地局	10	
5	消火用具	ファイヤーレンジャー	10	地区に10セット	0	山林火災想定地区

6		消火器（消火器格納庫）	13	集落に2本	10	
7		初期消火用具（ホース3本、管鎗等）	62	集落に1セット	40	
8	救出用具	梯子（2連アルミ）	9	倉庫に2つ	2	
9		チェーンソー	10	倉庫に2つ	0	
10		救助用工具セット	11	倉庫に2つ	0	
11		ハンマー	10	倉庫に2つ	0	
12		カケヤ	10	倉庫に2つ	0	
13		ボルトクリッパー（鉄線鋏）	10	倉庫に2つ	0	
14		一輪車	10	倉庫に2つ	0	
15		リヤカー	10	倉庫に2つ	0	
16		油圧ジャッキ	10	倉庫に2つ	0	
17		チェンブロック	10	倉庫に2つ	0	
18		ウインチ	10	倉庫に2つ	0	
19		レスキューキット（リュック型）	10	倉庫に2つ	0	
20		救護用具	救急セット50	6	倉庫に1つ	0
21	担架		12	倉庫に2つ	2	
22	レスキューボード（簡易担架）		11	倉庫に2つ	0	
23	避難所運常用具	コードリール	26	分館公民館・中規模集会所1ヶ所分を想定	12	
24		投光器	17	〃	6	
25		発電機（静音型）0.8kVA	22	〃	8	
26		炊飯器・釜（3～5升炊）	13	〃	7	

27		ガスボンベ	14	〃	7	
28		防災テント	11	〃	3	
29		防水シート(2間×3間)	45	〃	0	
30		防災ヘルメット	248	避難者は人口の1割を目安	128	
31		簡易トイレ	52	25人に1つ	0	
32		毛布	307	避難者は人口の1割×2枚	70	
33		簡易ベッド	69	避難者の5%	0	
34		車椅子	8	避難所に1台	8	
35	給水用具	浄水器	5	避難所に1台	0	
36	浸水害用品	土のう	200		100	備蓄の最低限の枚数
37	その他	防災倉庫	2		1	
38		パトロールベスト	10		0	
39		マルチポータブルラントラン	39		0	
40		ヘッドライト	39		0	
41		カセットガスストーブ	3		0	
42		消火用ホース	12		0	

## カ 地区防災備蓄倉庫一覧

### (ア) 整備済の防災備蓄倉庫

No.	倉庫名称	住所	主な備蓄品	管理者(鍵管理者)
1	小学校防災倉庫	飯田市川路3477-1	別表1 川路小学校 防災備蓄倉庫配備品 一覧による	小学校、中学校、まちづくり委員会会長、自治振興センター
2	中学校防災倉庫	飯田市川路4370	別表2 竜峡中学校 防災備蓄倉庫配備品 一覧による	同上(同じ鍵を使用)

3	水防倉庫	飯田市川路2667 -9	別表3 水防倉庫備 蓄品一覧による	自治振興センター
---	------	-----------------	----------------------	----------

別表1 川路小学校防災備蓄倉庫配備品一覧

No	品名		川路小学校 (50名)	単位	備考(保存期限等)
1	アルファ米		100	食	2017年6月 日
2	RITZ 缶		6	缶	2017年3月 日
3	水(500ml)		168	本	2017年2月19日
4	乳幼児用食品		24	食	年 月 日
5	粉ミルク (850g/缶)	新生児用	1	缶	2014年7月17日
		育児用	1	缶	年 月 日
6	毛布		50	枚	
7	バルーン式投光器		1	基	
8	発電機(エネポ)		1	台	平成25年度 購入備蓄
9	コードリール		2	台	
10	テント		1	張	
11	ワンタッチパーテーション		2	セット	
12	アルミ式リヤカー		1	台	
13	レスキューセット		1	セット	
14	担架		2	台	
15	給水タンク		2	台	
16	水袋(6L/袋)		40	枚	
17	ブルーシート		10	枚	
18	三脚		1	台	
19	メガホン		2	本	
20	台車		2	台	
21	非常用ラジオ	SONNY	1	台	
	非常用ラジオ	TOSHIBA	1	台	
22	ランタン大		2	台	
23	ランタン小		1	台	
24	乾電池	単1	12	本	平成24年度 購入備蓄
		単2	12	本	平成24年度 購入備蓄
		単3	8	本	平成24年度 購入備蓄

25	携帯電話用充電器 (100人に10個)	iphone用充電器	1	個	
		スマートフォン用充電器	4	個	
		au用充電器	2	個	
		FOMA用充電器	3	個	
26	延長コード(6個口)		2	本	
27	受付セット(文具)		1	セット	
28	バケツ(ブリキ製)		10	個	
29	ストーブ		1	台	
30	灯油缶詰(1L)		8	缶	平成25年度 購入備蓄
31	軍手		60	双	
32	梱包材(120cm×42m)		3	本	
33	折たたみポータブルトイレ		5	台	
34	便袋		200	枚	
35	トイレットペーパー		24	ロール	
36	カセットコンロ		2	台	
37	カセットボンベ		36	本	
38	包丁・まな板セット		1	セット	
39	ケトル		2	個	
40	箸 100膳		100	本	
41	お椀		100	個	
42	皿		100	枚	
43	コップ		50	個	
44	マルチハサミ(缶切り・栓抜き)		2	本	
45	ラップ(50m)		1	本	
46	救急セット		1	セット	
47	脱脂綿(50g入り)		5	枚	
48	三角巾		10	枚	
49	ガーゼ		100	枚	
50	サージカルテープ		10	巻	
51	絆創膏	Mサイズ 100枚入り	100	枚	
52	絆創膏	Lサイズ 100枚入り	100	枚	
53	伸縮包帯		6	本	
54	体温計		2	本	

55	綿棒 (200 本単位)		200	本	
56	マスク (50 枚組男性用×40 箱))		2,000	枚	
	マスク (50 枚組女性用×40 箱))		2,000	枚	
57	ティッシュペーパー		10	箱	
58	紙おむつ	新生児用	90	枚	
		M	56	枚	
		L	56	枚	
		大人用紙おむつ M~L	18	枚	
		大人用紙おむつ L~LL	16	枚	
59	ほ乳ビン	120ml	1	本	
		240ml	1	本	
60	生理用品		28	枚	
61	タオル		100	枚	
62	車いす		1	台	
63	プライベートルーム		1	基	
64	災害用組立トイレ		1	基	どんとこい
65	使い捨て歯ブラシ		200	本	
66	えいようかん		1	箱	2019 年 5 月 26 日
67	ビスコ		2		2018 年 12 月 日
68	ラテックスグローブ		2		平成 25 年度 購入備蓄
69	コピー用紙	A3・A4	1		
70	防災シート (伝言)		1		
71	ポリタンク 灯油用		1		
72	手指消毒薬 0.5L		4	本	平成 25 年度
73	手指消毒薬 1L		0	本	平成 25 年度
74	手指消毒薬 5L		0		平成 25 年度
75	脱臭剤		10	本	トイレ用
76	ガソリン缶詰		1	缶	平成 25 年度 購入備蓄
77	ヘルメット		5		
78	おふろですよ (本体)		1		平成 25 年度 購入備蓄
79	おふろですよ (詰替え)		1		平成 25 年度 購入備蓄
80	標識ロープ		1		
81	救急シート		10		

82	チャッカマン	2	個	
83	ゴミ袋	1		
84	発電機 EU9i			
	落下防止用ネット・バンド			実施済み

別表2 竜峡中学校防災備蓄倉庫配備品一覧

No	品名		竜峡中学校 (50名)	単位	備考（保存期限等）
1	アルファ米		100	食	2017年6月 日
2	RITZ 缶		6	缶	2017年3月 日
3	水（500ml）		168	本	2017年2月19日
4	乳幼児用食品		24	食	年 月 日
5	粉ミルク (850g/缶)	新生児用	1	缶	2014年7月17日
		育児用	1	缶	年 月 日
6	毛布		50	枚	
7	バルーン式投光器		1	基	
8	発電機（エネポ）		1	台	平成25年度 購入備蓄
9	コードリール		2	台	
10	テント		1	張	
11	ワンタッチパーテーション		2	セット	
12	アルミ式リヤカー		1	台	
13	レスキューセット		1	セット	
14	担架		2	台	
15	給水タンク		2	台	
16	水袋（6L/袋）		40	枚	
17	ブルーシート		10	枚	
18	三脚		1	台	
19	メガホン		2	本	
20	台車		2	台	
21	非常用ラジオ	SONNY	1	台	
	非常用ラジオ	TOSHIBA	1	台	
22	ランタン大		2	台	
23	ランタン小		1	台	
24	乾電池	単1	12	本	平成24年度 購入備蓄

		単 2	12	本	平成 24 年度 購入備蓄
		単 3	8	本	平成 24 年度 購入備蓄
25	携帯電話用充電器 (100 人に 10 個)	iphone 用充電器	1	個	
		スマートフォン用充電器	4	個	
		au 用充電器	2	個	
		FOMA 用充電器	3	個	
26	延長コード (6 個口)		2	本	
27	受付セット (文具)		1	セット	
28	バケツ (ブリキ製)		10	個	
29	ストーブ		1	台	
30	灯油缶詰 (1L)		8	缶	平成 25 年度 購入備蓄
31	軍手		60	双	
32	梱包材 (120cm×42m)		3	本	
33	折たたみポータブルトイレ		5	台	
34	便袋		200	枚	
35	トイレットペーパー		24	ロール	
36	カセットコンロ		2	台	
37	カセットボンベ		36	本	
38	包丁・まな板セット		1	セット	
39	ケトル		2	個	
40	箸 100 膳		100	本	
41	お椀		100	個	
42	皿		100	枚	
43	コップ		100	個	
44	マルチハサミ (缶切り・栓抜き)		2	本	
45	ラップ (50m)		1	本	
46	救急セット		1	セット	
47	脱脂綿 (50g 入り)		5	枚	
48	三角巾		10	枚	
49	ガーゼ		100	枚	
50	サージカルテープ		10	巻	
51	絆創膏	M サイズ 100 枚入り	100	枚	
52	絆創膏	L サイズ 100 枚入り	100	枚	

53	伸縮包帯		6	本	
54	体温計		1	本	
55	綿棒 (200 本単位)		200	本	
56	マスク (50 枚組男性用×40 箱))		2,000	枚	
	マスク (50 枚組女性用×40 箱))		2,000	枚	
57	ティッシュペーパー		10	箱	
58	紙おむつ	新生児用	90	枚	
		M	56	枚	
		L	56	枚	
		大人用紙おむつ M~L	18	枚	
		大人用紙おむつ L~LL	16	枚	
59	ほ乳ビン	120ml	1	本	
		240ml	1	本	
60	生理用品		28	枚	
61	タオル		100	枚	
62	車いす		1	台	
63	プライベートルーム		1	基	
64	災害用組立トイレ		1	基	どんとこい
65	使い捨て歯ブラシ		200	本	
66	えいようかん		1	箱	2019 年 5 月 26 日
67	ビスコ		2		2018 年 12 月 日
68	ラテックスグローブ		2		平成 25 年度 購入備蓄
69	コピー用紙	A3・A4	1		
70	防災シート (伝言)		1		
71	ポリタンク 灯油用		1		
72	手指消毒薬 0.5L		4	本	平成 25 年度
73	手指消毒薬 1L		0	本	平成 25 年度
74	手指消毒薬 5L		0		平成 25 年度
75	脱臭剤		10	本	トイレ用
76	ガソリン缶詰		1	缶	平成 25 年度 購入備蓄
77	ヘルメット		5		
78	おふろですよ (本体)		1		平成 25 年度 購入備蓄
79	おふろですよ (詰替え)		1		平成 25 年度 購入備蓄

80	標識ロープ	1		
81	救急シート	10		
82	チャッカマン	2	個	
83	ゴミ袋	1		
84	発電機 EU9i			
	落下防止用ネット・バンド			実施済み

別表3 水防倉庫備蓄品一覧

備蓄品目	規格等	年度	数量	備考
コードリール	BX301K (屋外用)	20	5	本部
投光器	KNH-305DP (ハロゲン灯)	20	3	本部
投光器	KNH-505DP (ハロゲン灯)	20	2	本部
投光器スタンド	TS-2000	20	1	本部
発電機	三菱製 MGE2501	20	1	本部
防災毛布	真空パックエコ毛布 (8つ折)	20	20	本部
折畳式リヤカー	PHC-130	21	1	本部
防災毛布	真空パックエコ毛布 (8つ折)	21	20	本部
防災テント	天幕テント 2×3間 (名入れ、四方幕付)	21	1	本部
テント	パーソナルテント (災害時トイレ用)	23	2	本部
テント	パーソナルテントL (災害時トイレ用)	23	1	本部
非常用トイレ	ダンボール組立トイレ	23	10	本部
非常用トイレ用具	ベンリー袋セット 100回分	23	2	本部
ラジオ	多機能ラジオ・手回し充電タイプ	23	10	本部
発電機	SHINDAIWA (インバータ)	23	1	本部
ポンプ用ホース	65×20m 1.3Mpa (キンパイ、保険付)	23	5	防災川路

(イ) 倉庫別備蓄品の状況と購入計画

No.	区分	品名	在庫数量	目標数量	備考			
					27	28	29	30以降
1	情報伝達用具	本部看板	1	1	-	-	-	-
2		スピーカーセット	1	1	-	-	-	-

3		電気メガホン	11	17	-	-	-	6
4		無線機	10	11	-	-	-	1
5	消火用具	ファイヤーレンジャー	0	10	-	-	-	10
6		消火器（消火器格納庫）	10	13	-	-	-	3
7		初期消火用具	40	62	4	5	2	11
8	救出用具	梯子	2	9	-	-	-	7
9		チェーンソー	0	10	-	-	-	10
10		救助用工具セット	0	11	-	-	-	11
11		ハンマー	0	10	-	-	-	10
12		カケヤ	0	10	-	-	-	10
13		ボルトクリッパー（鉄線鋏）	0	10	-	-	-	10
14		一輪車	0	10	-	-	-	10
15		リヤカー	0	10	-	-	-	10
16		油圧ジャッキ	0	10	-	-	-	10
17		チェンブロック	0	10	-	-	-	10
18		ウインチ	0	10	-	-	-	10
19	レスキューキット（リュック型）	0	10	-	1	-	9	
20	救護用具	救急セット 50	0	6	3	-	1	2
21		担架	2	12	-	-	0	10
22		レスキューボード（簡易担架）	0	11	-	-	0	11
23	避難所運営用具	コードリール	12	26	-	4	0	10
24		投光器	6	17	-	1	0	10

25		発電機（静音型）	8	22	-	-	1	13
26		炊飯器・釜（3～5升炊）	7	13	-	-	-	6
27		ガスボンベ	7	14	-	-	-	7
28		防災テント	3	11	2	-	1	5
29		防水シート	0	45	-	10	-	35
30		防災ヘルメット	128	248	42	-	-	78
31		簡易トイレ	0	52	1	2-	-	49
32		毛布	70	307	70	20	-	147
33		簡易ベッド	0	69	-	-	-	69
34		車椅子	8	8	-	-	-	-
35	給水用具	浄水器	0	5	-	-	-	5
36	浸水害用品	土のう	100	200	-	-	-	100
37	その他	防災倉庫	1	2	-	-	-	1
38		パトロールベスト	0	10	-	-	10	-
39		マルチポータブルラ ンタン	0	39	39	-	-	-
40		ヘッドライト	0	39	-	39	-	-
41		カセットガスストー ーブ	0	3	-	-	3	-
42		消火用ホース	0	12	4	4	4	-

#### キ 避難所等

区分	名称【鍵管理者】	所在地	電話	受入人数	災害種類
指定避難施設	川路小学校体育館(2区から5区) 【小学校教頭、自治振興センター】	川路 3477-1	27-2011	250	地、風、土
	竜峡中学校体育館(6区から8区) 【中学校教頭、体育主任教師、自治振興センター】	川路 4370	27-2163	350	地、風、土

応急避難施設	川路保育園 【職員5名、自治振興センター】	川路 3467-2	27-3202	160	地、風、土
	天竜川総合学習館かわらんべ 【かわらんべ館長、自治振興センター、天竜川上流河川事務所調査課、飯田市建設部管理課】	川路 7674	27-6115	370	地、風、土
	みなみ信州農協川路支所 【支所長】	川路 2720	27-2341	80	地、風、土
	川路2区公民館 【区長】	川路 1041-1	27-4123	60	地、風、土
	川路3区集会所 【区長】	川路 1974-1	なし	40	地、風、土
	川路4区集会所 【区長】	川路 2676-3	なし	100	地、風、土
	川路5区公民館 【区長】	川路 3583-5	なし	60	地、風、土
	川路6区コミュニケーションセンター 【区長】	川路 4183	27-4686	80	地、風、土
	竜峡会館 【区長】	川路 4832-1	なし	120	地、風、土
	川路8区公民館 【区長】	川路 5763-1	27-4679	120	地、風、土
避難地	川路小学校グラウンド	川路 3477-1	27-2011	3,060	地、風、土
	竜峡中学校グラウンド	川路 4370	27-2163	4,790	地、風、土
一時避難場所	別表4 一時避難所リストによる				
指定緊急避難場所(2区)	一本平公園	川路 963-1	なし		地、風、土
指定緊急避難場所(3区)					地、風、土

指定緊急避難場所(4区)					地、風、土
指定緊急避難場所(5区)					地、風、土
指定緊急避難場所(6区)					地、風、土
指定緊急避難場所(7区)					地、風、土
指定緊急避難場所(8区)	川路8区公民館	川路 5763-1	27-4679		地、風、土

別表4 一時避難所リスト

区	組合	一時避難場所名称	所在地	受入人数	災害種類
2	1・2	一本平公園	川路 963-1	71	地・風・土
	3・4・5	■■■■旧オガコ置場	■■■■	79	地・風・土
3	1・2	英広場	川路 2268-1	94	地・風・土
	3・4	3区集会所	川路 1974-1	55	地・風・土
4	1	■■■■宅■■■■宅前	■■■■	45	地・風・土
	2	さろんあやめ駐車場	川路 2682	42	地・風・土
	3	J A川路事業所駐車場	川路 2675-1	47	地・風・土
	4	川路公民館第2駐車場	川路 2739	42	地・風・土
	5	元貯水池跡付近	川路 2875-2	32	地・風・土
	6	旭ヶ丘団地貯水池前	川路 2873-3	56	地・風・土

	7	宮ヶ洞からの旭ヶ丘団地登り口付近	川路 2786-3	55	地・風・土
5	1	大榎公園	川路 7100	14	地・風・土
		平安祭典	川路 3705-1	8	地・風・土
	2	■■■■■ハウス横	■■■■■	13	地・風・土
		平安祭典上付近	川路 3705-1	1	地・風・土
	3	宝生産業跡地	川路 3645-3	22	地・風・土
		■■■■■前	■■■■■	3	地・風・土
	4	■■■■■前付近	■■■■■	29	地・風・土
	5	宝生産業跡地	川路 3645-3	8	地・風・土
		■■■■■前	■■■■■	13	地・風・土
	6	平安祭典上付近	川路 3705-1	5	地・風・土
■■■■■付近		■■■■■	24	地・風・土	
6	区割り変更のため策定中				
7	1	■■■■■宅前空き地	■■■■■	11	地・風・土
	2・3	相生広場	川路 4251-4	14	地・風・土
	4	■■■■■宅前空き地	■■■■■	13	地・風・土
	5	■■■■■宅前空き地	■■■■■	23	地・風・土
	6	■■■■■宅前空き地	■■■■■	31	地・風・土
	7	リンドウさん駐車場	川路 4765-1	9	地・風・土
	8	市瀬医院さん駐車場	川路 4822-1	16	地・風・土
	9	■■■■■車庫前空き地	■■■■■	18	地・風・土
	10	天龍峡駐在所前空き地	川路 4701-1	25	地・風・土
	11	■■■■■宅前空き地	■■■■■	21	地・風・土
	12	駅前広場	川路 4734-3	13	地・風・土
	13・14	八十二銀行駐車場	川路 4759-1	31	地・風・土

	15	観光案内所前空き地	川路 4756-28	23	地・風・土
	16	平岩医院さん横駐車場	川路 4938	17	地・風・土
8	1・2・3	二タ井	川路 5886	80	地・風・土
	4・6	8区公民館	川路 5763	40	地・風・土
	5・7	ファミリーマート	川路 5579	57	地・風・土
	8・9・10	マレット駐車場	川路 5639-1	92	地・風・土
	11~16	天龍峡テニスコート駐車場	川路 5078-2	142	地・風・土

### (3) 発災直前の活動（気象注意情報・前兆現象の始まりから発災まで）

#### ア 情報収集・共有・伝達体制

##### (ア) 前兆現象等の連絡・報告

順位	誰がどこへ	何を（情報の種類）	どうやって（伝達手段）
①	前兆現象発見者→市役所危機管理室	前兆現象の状況（いつ、どこで、どのような状況か）	電話連絡
②	前兆現象発見者→伍長・区長→住民	前兆現象の状況（いつ、どこで、どのような状況か） ※伍長・区長は情報受理後、直ちに自主避難を呼びかける。避難を開始。	電話、若しくは直接口頭
③	①→消防・警察・消防団・各自治振興センターへ連絡	前兆現象の状況及び避難情報発出見込み情報	電話
④	区長→自治振興センター	地区内の状況を集約し共有化	電話、不通時は地区で配備したデジタル無線機

##### (イ) 状況把握（見回り、住民の所在確認）

何を	いつまでに	誰が	どのように
河川の状況確認	警戒水位に達するまで	水防組合、消防団、自主防災会役員、河川付近の住民	2名以上で身の安全を確保しながら、堤防の状況等を確認
急傾斜地の状況確認	大雨警報若しくは土砂災害警戒情報が発表されるまで	消防団、自主防災会役員、レッドゾーン住民	2名以上で身の安全を確保しながら、前兆現象の有無確認

用水路の確認 (つまり等)	降雨が強くなるまで	用水路付近の住民、 伍長	2名以上で身の安全を確保しながら、詰まりがないことを確認
住民の所在確認	大雨警報若しくは土砂災害警戒情報発表直後	伍長、区長	2名で近隣住民の所在を確認し、危険を感じた場合は避難を促す

## イ 避難情報（避難準備情報・避難勧告・避難指示）伝達方法

### (ア) 土砂災害・風水害・大雪等

順位	誰が誰に対して (対象者)	何を（情報の種類）	どうやって（伝達手段）
①	自治振興センター →各区長	・避難情報（避難準備情報・避難勧告・避難指示） ・避難所開設情報	電話連絡、不通時は地区で 配備したデジタル無線機
②	各区長 →レッドゾーン居住者	〃	電話、若しくは直接口頭
③	各区長→伍長	・避難情報（避難勧告・避難指示） ・避難所開設情報	電話、若しくは直接口頭
④	伍長→地区民全員	〃	電話、若しくは直接口頭
⑤	地区民全員→避難行動 要支援者（助けあいマッ プ要支援者）	〃	電話、若しくは直接口頭

### (イ) 地震

順位	誰が誰に対して (対象者)	何を（情報の種類）	どうやって（伝達手段）
①	自治振興センター →各区長	・避難情報（避難勧告・避難指示） ・避難所開設情報	電話連絡、不通時は地区で 配備したデジタル無線機
②	各区長 →レッドゾーン居住者	〃	電話、若しくは直接口頭
③	各区長→伍長	〃	電話、若しくは直接口頭
④	伍長→地区民全員	〃	電話、若しくは直接口頭
⑤	地区民全員→避難行動 要支援者（助けあいマッ プ要支援者）	〃	電話、若しくは直接口頭

ウ 防災気象情報の確認

何を	いつまでに	誰が	どのように
大雨注意報	発表直後、直ちに確認	住民全員	テレビ、ラジオ等からの情報
大雨警報	発表直後、直ちに確認	同上	同上
土砂災害警戒情報	発表直後、直ちに確認	同上	エリアメール、いいだ安全安心メール、同報系防災行政無線、安心ほっとライン等
大雨特別警報	発表直後、直ちに確認	同上	同上

(4) 災害時の活動

ア 身の安全確保（地震）

何を	いつまでに	誰が	どのように
ダンゴムシのポーズ	緊急地震速報が流れたら直ちに実施。揺れが収まるまで。	全住民	身を小さくし、頭を守り、動かない。
一時避難場所への避難	揺れが収まったら、最寄りの一時避難場所へ集合する。	全住民	隣組ごとに集まり、安否確認をする。

イ 身の安全確保（風水害、土砂災害）

何を	いつまでに	誰が	どのように
安全な場所への避難（水平避難）	土砂災害が発生する前の安全な状態のうちに。	・危険を感じた全住民 ・避難情報発令対象地区の住民 ・土砂災害特別警戒区域の住民	動きやすい服装、運動靴で安全な場所へ移動する
やむを得ず高いところへの避難（垂直避難）	別の場所へ避難することが危険な場合	同上	建物の2階以上の山から離れた部屋に移動する。

ウ 出火防止

何を	いつまでに	誰が	どのように
通電火災の防止	揺れが収まり、一時避難所へ向かうとき	全世帯	ブレーカーを遮断
初期消火	天井に炎が到達するまで	協力可能な住民	消火器による初期消火 初期消火用具による放水

エ 住民同士の助け合い・救助・救出・避難支援

何を	いつまでに	誰が	どのように
避難行動要支援者への支援	災害発生前後	予め定めた支援者 若しくは隣近所の住民	要支援者の自宅に出向き安否を確認。避難が必要であればその支援をする。
隣近所の安否確認	災害発生前後	伍長及び全住民（伍長不在時の役割分担ルールを各区で決めておく）	各戸の居住状況の確認及び垂直避難の呼びかけ。
倒壊家屋等からの救助	被災後直ちに	隣近所を中心とした住民、区による救助態勢	救助用資機材及び2人以上の人員を確保し、2次災害に留意しながら救助活動を行う。

オ 情報収集・共有・伝達

何を	いつまでに	誰が	どのように
安否の確認・被害の状況	被災直後、出来るだけ早く。	伍長及び全世帯	各戸の状況を伍長が把握。直ちに区長へ連絡する。区民と情報を共有していく。
安否の確認・被害の状況	被災直後、出来るだけ早く。	区長	区民からの報告を踏まえ、いつ、どこで、誰が、どういう状況か、支援の必要の有無を、自治振興センターへ伝達する。「人命・住家」関係優先。
避難生活に関する情報	避難所開設後、随時	区長、避難所運営責任者	現在不足しているもの、将来的に発生するであろう課題に対する要望について情報収集をする。在宅避難者のニーズ把握も忘れない。

カ 物資の仕分け、炊き出し

何を	いつまでに	誰が	どのように
物資の仕分け	物資が避難所に到着した時から	物資担当者 (自主防災役員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難施設内に物資を置く場所を確保。</li> <li>・ 避難者へ配分するもの、希望者のみに配布するもの等を区別。</li> <li>・ 男女の性差に応じた配布時の配慮を。</li> <li>・ 配布等については、情報の開示に特に配慮を。</li> </ul>
炊き出し (指定避難施設)	施設開設後、状況を見て、回数、時期等を決めていく。	赤十字奉仕団を中心とするボランティア	自主防災会長の要請を受けて、炊き出しを実施。食材・燃料の確保状況を鑑みメニューを立案する。
炊き出し (応急避難施設)	被災直後、最初の夜までに1回。以後状況を見て回数、時期等決めていく。	同上	区長の要請を受けて、炊き出しを実施。食材・燃料の確保状況を鑑みメニューを立案する。

#### キ 指定避難所運営、在宅避難者への支援

何を	いつまでに	誰が	どのように
避難所の開設	避難所開設指示受理後直ちに、又は被災後直ちに	自主防災会役員及び早期に来た住民	チェックシートによる施設の安全確認。施設の清掃、利用スペースの確認、資機材の準備。
避難所の受付	施設の安全が確認され、準備が整ってから	同上	開設準備及びルールが決定後、受付名簿により避難者を把握。
避難所の運営	被災直後から概ね3ヶ月	自主防災会役員(女性を含めること)	物資の配分、炊き出しや清掃、防犯など役割を避難所への避難者、在宅避難者双方で担う。
在宅避難者への支援	被災後からライフライン復旧(1ヶ月)まで	同上(在宅避難者にも役割を担ってもらう)	飲料水、食糧等を求めに来るため、配分等に在宅避難者も協力してもらう。登録は必須。

### (5) 復旧・復興期の活動

#### ア 被災者に対する地域コミュニティ全体での支援

何を	いつまでに	誰が	どのように
心のケア	安定した生活が送れるようになるまで	隣近所でお付き合いのある住民	日常的な声かけ、あいさつのほか、話し相手となること
情報の提供・共有・わかりやすい説明	同上	・ 同上 ・ 避難所等運営している顔の見える関係のある者	先の見通しや、支援に関する制度がわからないことが予見。誰にでもいつでもわかる情報共有を！
生活不活発病	同上	誰でも	ストレッチ・軽い運動・ゲーム等
歯科疾患	同上	歯科医師	歯磨きシート等

#### イ 関係者の連携による速やかな復旧・復興

何を	いつまでに	誰が	どのように
復興計画策定に向けた地元意見の集約	計画策定中	まちづくり委員会の役員	市が策定する復興計画への意見の集約や提案をワークショップなどの手法を用いて取りまとめる。
仮設住宅の予定地を予め決めておく	災害発生前までに	市、地元まちづくり委員会	各地区の被害予測から仮設住宅の必要見込みを検討し、適地を予め登録しておく。

#### (6) 市、消防、他団体、ボランティア等との連携（平常時～復興まで）

何を	いつまでに	誰が	どのように
危険箇所の把握	平常時	市、自主防災会、消防団	ハザードマップを用いて現地確認
初期消火活動	平常時～応急期	消防団、自主防災会	資機材の点検を兼ねて放水等の訓練を実施
炊き出し	平常時～応急期	市、赤十字奉仕団、ボランティア組織、自衛隊	材料の調達、資金負担、役割分担等を予め確認。訓練も実施
ボランティア活動	平常時～応急期	市、赤十字奉仕団、ボランティア組織、社協	ボランティアセンターの立上げやニーズの把握、ボランティアの受入等多岐にわたる内容を予め訓練等で調整

## 6 実践と検証

### (1) 防災訓練の実施・検証

何を	いつまでに	誰が	どのように
避難訓練	毎年1回 (9月)	全住民 自主防災会役員	災害別に、いつ、どこへ、どこを 通って避難するか、実働する
避難場所・避難路 の確認訓練	同上	同上	災害別にどこが安全か確認する
避難行動要支援者 把握訓練	同上	同上	近隣の避難行動要支援者の把握 と、声掛け
安否確認訓練	同上	同上	一時避難場所での安否確認訓練
避難所開設訓練	同上	同上	避難所を開設するための資機材 の運搬、受付開設の訓練
避難所運営訓練	同上	同上	物資の確保、情報の共有、炊き 出し等の実動型の訓練。避難所 体験も行うと良い。
情報伝達・収集訓 練	同上	同上	災害の概要をいかに早く把握 し、住民や関係機関と共有する か。
消火訓練	同上	同上	初期消火をいち早く行うための 訓練
給水・給食訓練	同上	同上	給水活動や炊き出しといった訓 練
救命救護訓練	同上	同上	医師と連携トリアージ訓練や、 赤十字救急法による軽症者の手 当
資機材取扱訓練	同上	同上	様々な防災資機材の使い方を習 得

### (2) 防災意識の普及啓発

何を	いつまでに	誰が	どのように
家族での話し合い	季節ごとに1回	家族ごと	夕飯時に、どこが危険か、どこ へいつ避難するか、安否確認は どうやって行うかを話し合う

地域での話し合い	組合ごとに年1回 区ごとに年3回	伍長、区長、区役員	危険箇所、避難場所、事前対策、 応急対応について話し合い
地域イベントでの 防災要素の取り入 れ	通年	各役員	様々なイベントで、防災要素を 1つは組み入れていく
研修会・講演会の 開催	区単位で年1回	全住民	防災知識を高めるため、講師を 呼び学習機会を設ける
被災地の視察、教 訓を学ぶ	年1回	自主防災役員	他地域の被災状況や教訓を学 び、自らの地域に役立てる。自 身の地域の災害伝承についても 学ぶ
防災に関するパン フレット、チラシ の配布	年1回	全戸	家庭内備蓄を進めたり、家具の 転倒防止を推進するためのチラ シやパンフレットを配布する。
防災ゲームの実施	年1回	全住民のうち希望 者	クロスロード、避難所運営ゲー ムといった防災ゲームを取り入 れます。

### (3) 計画の見直し

何を	いつまでに	誰が	どのように
地区防災計画	毎年2月末までに	自主防災会役員	1年間の訓練や活動実績を踏ま えて、実態に則した計画の見直 しを行う。
地区防災マニユア ル（風水害編）	同上	同上	同上
地区防災マニユア ル（地震編）	同上	同上	同上
地区防災マニユア ル（雪害編）	同上	同上	同上
避難所運営マニユ アル	同上	同上	同上